

～健口と輝く笑顔のために～

歯科衛生だより会報

2019 June vol. 51

発行人／武井 典子 発 行／公益社団法人 日本歯科衛生士会 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023 <http://www.jdha.or.jp/>

『歯科衛生士法制定70周年・日本歯科衛生士会創立65周年記念の会』開催

記念講演、記念式典、
記念祝賀会が行われました



記念講演の
講師 高柳和江氏

平成31(2019)年2月17日(日)東京国際フォーラムにおいて「歯科衛生士法制定70周年・日本歯科衛生士会創立65周年記念の会」が開催された。まず初めに、医学博士であり笑医塾塾長をされている高柳和江氏による記念講演が行われた。笑医と癒しの啓発に力を注いでおられる講師から「ほほえみの太陽」という感動の笑医

を身につける方法について、ご講演いただいた。その後、記念式典では日本歯科衛生士会武井典子会長の挨拶に続き、厚生労働大臣(代理 吉田学医政局長)、日本歯科医師会 堀憲郎会長、日本歯科医学会 住友雅人会長よりご祝辞を賜った。また、日本歯科医師連盟 久保田智也理事長、日本歯科技工士会 杉岡範明会長、



厚生労働省医政局歯科保健課 田口円裕課長、厚生労働省医政局歯科保健課歯科口腔保健推進室 宮原勇治室長、歯科医療振興財団 三浦廣行理事長ほか多数のご来賓にご臨席いただいた。続く表彰式では、厚生労働大臣表彰46名、会長表彰76名の受賞者の名前が読み上げられ、各表彰の代表者に表彰状が授与された。その後、会場を移し「記念祝賀会」が催された。ご来賓の方々をはじめ受賞者、各都道府県歯科衛生士会会长、会員ともに和やかに談笑し、記念の日を祝った。

会長挨拶



記念式典は、日本歯科衛生士会上田和美副会長の開会の辞に続き、武井典子会長の挨拶で幕を開けた。「歯科衛生士法が制定されて70年、日本歯科衛生士会が創立されて65年となるこの年に記念の会が開催され、嬉しく思う。先人のたゆまぬ努力と多くの指導者・関係者に支えられ、近年、アメリカに次いで世界で2番目の就業歯科衛生士数を誇るまでに至った」とし、「日本は高齢化がますます進み、歯科診療所の受診者の約40%が65歳以上となり、そこに勤務する歯科衛生士も全身管理や医科歯科連携が求められている。在宅療養者の『口から食べる幸せ』を支援するためには、歯科衛生士は地域に出て多職種と連携しながらその専門性

を發揮しなければならない」と話された。続けて「このような社会ニーズに応え、専門性をさらに高めるため、都道府県歯科衛生士会と連携して生涯研修を強化し認定研修を拡充してきた。さらに本年4月より、いつでも誰でもどこでも本会の生涯研修を受けられるようeラーニングをスタートする予定である。また全国的に災害が多発する中、災害支援に対応できる歯科衛生士の人材育成も行ってきた。それとともに『新人歯科衛生士』と『復職支援』の共通ガイドラインを作成し、厚生労働省より委託を受け、この共通ガイドラインを地域で実践できる指導者の育成を行ってきた。今後も都道府県歯科衛生士会と連携し人材育成、人材確保に取り組みたい」と話され、組織として目指す方向性を示された。



記念誌「歯科衛生士のあゆみ
2012 to 2017」を発行しました

来賓挨拶

ご臨席を賜った来賓の方々からご祝辞をいただいた。はじめに、厚生労働大臣 根本匠氏(代読 吉田学医政局長)より「健康長寿社会を実現するためには、生活習慣病の予防をはじめとする健康づくりの推進、また栄養バランスのとれた食事をおいしく食べるための口腔機能の維持・増進を図ることが重要である。

歯科口腔保健については、平成23年に公布・施行された『歯科口腔保健の推進に関する法律』に基づき、口腔の健康保持を推進するための施策を歯科医療関係者の方々とともに総合的に推進していきたい。日本歯科衛生士会の方々には、その実績と経験をいかし、地域住民の口腔の健康を向上させるために今後も尽力していただきたい」とのご祝辞に続き、(公社)日本歯科医師会会长 堀憲郎氏より「近年の急激な少子高齢化、超高齢社会において歯科医療の新たな役割を担っていくために、歯科界は

厚生労働大臣代理
吉田 学氏日本歯科医師会
会長 堀 憲郎氏日本歯科医学会
会長 住友 雅人氏

口腔健康管理を充実させることにより、健康寿命の延伸に取り組まなければならない。日本歯科衛生士会がここ数年重点課題として取り組んできた『歯科衛生士の人材確保・復職支援』『認定研修の充実』『災害支援活動の強化』等の事業は社会のニーズに応える責任ある姿勢として高く評価できるものである。地域包括ケアシステムが進められる中、これからも歯科界は『オールデンタル』として結束し、同じ価値観を共有し国民のための歯科医療をともに展開していきたいとの力強いお言葉をいただいた。次に、日本歯科医学会会長 住友雅人氏から「歯科衛生士が大きく成長するには歯科医師の力が必要であると同様に、歯科医師が大きく伸びるためには歯科衛生士の力が必要である。それぞれの視点が協働すれば、より深く物事が進展していき、チーム医療の核となる。超高齢社会の中で、これから歯科衛生士は全身管理の知識と技能を獲得し、口腔と全身疾患の関連性について、さらに学びを深め専門性を發揮していただきたい。日本歯科衛生士会創立65周年を機に、存在感が一段と飛躍することを願っている」とエールを送られた。

表彰式

来賓挨拶の後、表彰式が行われた。まず厚生労働大臣表彰は、永年にわたり歯科疾患の予防および口腔衛生の向上に尽力し、歯科保健医療行政に協力するなど歯科衛生士業務に関し、顕著に功績のあった個人に「歯科衛生士法制定70周年・日本歯科衛生士会創立65周年」を記念して表彰されるものである。受賞者46名の名前が読み上げられ、代表として富田基子氏(東京都)に厚生労働省 吉田学医政局長より表彰状が授与された。

次に、会長表彰の永年精勤賞55名と功労賞21名の名前が読み上げられた。永年精勤賞は、会員として永年歯科衛生士会を支えた方で正会員歴35年以上などの基準を満たした方を表彰する。また功労賞は、本会の発展に貢献があった方で正会員歴30年以上、役員歴が10年以上ある方を対象に表彰する栄えあ



会場からは温かい祝福の拍手が送られました

る賞である。代表として永年精勤賞は高藤千鶴氏(大分県)、功労賞は近田紀子氏(三重県)に武井典子会長より表彰状が授与された。

代表の方々はもとより、受賞された皆様の緊張と感動が会場を包み、参加者は大きな拍手で祝福の気持ちを表した。厚生労働大

富田基子氏に吉田医政局長から
「厚生労働大臣表彰」が授与されました高藤千鶴氏に武井会長から
「永年精勤賞」が授与されました近田紀子氏に
「功労賞」が授与されました

臣表彰および日本歯科衛生士会会長表彰の受賞者を代表して、宮脇恵美子氏(鹿児島県)が謝辞を述べた。鹿児島県歯科衛生士会の法人化に仲間とともに尽力してきた宮脇氏は「少子高齢社会の進展に伴う社会情勢の変化とともに、歯科衛生士の役割は変化してきた。歯科衛生士はさらに社会的信頼を得て、口腔健康管理に取り組まなければならない。これからも歯科保健・医療・福祉を担う

者として、なお一層努力していきたい」との思いを述べられた。

記念式典終了後に行われた伝達式では、壇上において厚生労働省医政局歯科保健課 田口円裕課長より厚生労働大臣表彰受賞者全員に表彰状が授与された。記念祝賀会後には会長表彰受賞者全員に武井典子会長が表彰状を授与し、感動のうちに記念式典が終了した。

謝 辞



このたび、厚生労働大臣表彰を拝受けましたことは、誠に身に余る光栄であり、心より厚く御礼申し上げます。

歯科衛生士の誕生から70年を迎えた。この間、少子高齢社会の進展により、社会情勢は大きく変化し、歯科衛生士に求められる役割、使命も時代とともに変わってきたと強く感じております。

私事ではありますが、鹿児島県歯科衛生士会会长当時、平成20年、法人制度改革が始まりました。歯科衛生士の社会的信頼を確立させたいと考え、先輩方も強く望

宮脇 恵美子(鹿児島県歯科衛生士会)

まれていた法人設立を目指すことといたしました。かなり高い山ではございましたが、多くの方々のご指導、ご支援を受け、平成22年公益法人への移行を果たすことができました。審査会の帰り仲間と泣き笑いした記憶が今、鮮明によみがえります。現在では、全国ほんどの歯科衛生士会が、公益社団法人・一般社団法人として、社会的信頼を得て、活動しております。

近年、歯科衛生士の役割は、診療所から地域、生活の場へと大きく広がり、医療と介護の連携による口腔健康管理が重要となっております。これからも歯科保健・医療・福祉を担う責任ある者として、今回の受賞を励みに、なお一層の精進を重ね、それぞれの活動を通して地域の皆様の期待に応えてまいりたいと思います。

記念祝賀会

記念式典終了後の記念祝賀会では、吉田直美副会長の開会の辞に続き、武井典子会長より挨拶の後、歯科医療振興財団三浦廣行理事長、日本学校歯科医会 川本強会長からご祝辞をいただいた。そして、日本歯科商工協会 森田晴夫会長の乾杯のご発声で祝賀会がスタートした。歓談の中、東京歯科大学短期

大学 石井拓男学長(日本歯科衛生学会顧問)さらに日本歯学系学会協議会 羽村章理事長からご祝辞をいただいた。参加者の皆様はフロア中央に並べられたさまざまな料理を楽しみながら、今日の記念すべき会を機に、さらに今後の活動について情報交換や思いを共有しつつ、活発に交流している姿が印象的であった。会場は華やかな祝賀ムードに包まれ大いに語り合い、それぞれに貴重な場となった。

(常務理事 井出 桃)

弦楽四重奏と歌唱のミニコンサート



記念講演に始まり、記念式典、記念祝賀会と続いた晴れの日に、祝賀会で華を添えたのが『Duo音の絵』によるソプラノとピアノのデュオと東京音楽大学学生で結成している『タイガー弦楽四重奏団』による弦楽四重奏であった。「上を向いて歩こう」「見上げてごらん夜の星を」「蘇州夜曲」などの透き通る歌声が会場をつつみ、参加者は懇談しながらも、その歌声とピアノの演奏に聴きいった。また、弦楽四重奏でのモーツアルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク 第1楽章」の演奏は心に響く、その音のハーモニーを存分に楽しんだ。最後は、日本歯科衛生士会歌「あなたの笑顔をさせたい」の歌と演奏であった。参加者も共に歌い、この祝賀会にふさわしく晴れやかにそして心ひとつになったひと時であった。

厚生労働大臣表彰

歯科衛生士法制定70周年・日本歯科衛生士会創立65周年 記念式典
主催：公益社団法人 日本歯科衛生士会



門脇ひとみ	(北海道)	藤澤 雅子	(北海道)
古田 直子	(青森県)	浅木 美智子	(青森県)
晴山婦美子	(岩手県)	工藤 京子	(宮城県)
志村 恭子	(秋田県)	菅野 洋子	(福島県)
芹澤 鏡子	(茨城県)	神戸 節子	(群馬県)
福田 尚子	(埼玉県)	富田 基子	(東京都)
武井 典子	(東京都)	松木 一美	(東京都)
中澤千賀子	(神奈川県)	山口 敦子	(新潟県)
長江 悟子	(富山県)	市川 洋子	(石川県)
坂本 陽子	(福井県)	丸山 安基子	(長野県)
唐澤美和子	(長野県)	宮嶋 典子	(長野県)
野々垣静子	(岐阜県)	今井 須美子	(静岡県)
久田せつ子	(愛知県)	吉田 さよ子	(三重県)
中村あさ子	(滋賀県)	辻 久子	(京都府)
永井るみこ	(大阪府)	高橋 千鶴	(兵庫県)
上田 和美	(兵庫県)	仁義己紀子	(奈良県)
小室 恵子	(和歌山県)	横山 多恵子	(鳥取県)
石田 真南	(広島県)	長澤 廣美	(愛媛県)
稻井由美子	(愛媛県)	片岡 千香	(高知県)
大野 由香	(高知県)	小川 千秋	(佐賀県)
山下 浩子	(長崎県)	江口 早苗	(熊本県)
古川由美子	(熊本県)	淀川 尚子	(熊本県)
宮脇恵美子	(鹿児島県)	小禄 克子	(沖縄県)



(敬称略)

平成30年度日本歯科衛生士会会長表彰

歯科衛生士法制定70周年・日本歯科衛生士会創立65周年 記念式典
主催：公益社団法人 日本歯科衛生士会



永年精勵賞

楨島 幸子	(北海道)	小田 郁子	(岩手県)
藤原 超子	(岩手県)	浅野 光子	(宮城県)
片平 玲子	(福島県)	宍戸 妙子	(福島県)
添田 真里	(福島県)	鈴木 のり子	(福島県)
根本 初江	(福島県)	川岸 由美子	(群馬県)
平井 京子	(埼玉県)	酒井 真知子	(埼玉県)
日下 和代	(千葉県)	時田 一枝	(千葉県)
羽生 秀子	(千葉県)	遠藤 圭子	(東京都)
三浦 裕江	(東京都)	松木 一美	(東京都)
富田 町子	(神奈川県)	江川 廣子	(新潟県)
唐澤 美和子	(長野県)	小野 信子	(岐阜県)
土岐 正子	(岐阜県)	鈴木 温子	(静岡県)
岡崎 やよい	(愛知県)	岡田 栄子	(愛知県)
丸尾 和子	(愛知県)	小川 真理子	(三重県)
大谷 直美	(滋賀県)	保智 洋子	(滋賀県)
辻 真理子	(奈良県)	阿賀野 和子	(大阪府)
石谷 有子	(大阪府)	梅崎 教子	(大阪府)
喜多 亮子	(大阪府)	嶋本 俊子	(大阪府)
永井るみこ	(大阪府)	西川 亮子	(大阪府)
松浦 恵美子	(大阪府)	山本 操	(大阪府)
恵比須美知代	(兵庫県)	手島 由美子	(兵庫県)
森 慶子	(兵庫県)	山下 好栄	(兵庫県)
榎本 恵子	(和歌山県)	畠中 幸代	(和歌山県)
渋谷 知子	(島根県)	平田 和子	(岡山県)
西内 美津子	(高知県)	初道 文子	(高知県)
木戸みどり	(香川県)	笹山 加代子	(香川県)
岡 和江	(福岡県)	高藤 千鶴	(大分県)
矢野 智香	(大分県)		

功 劳 賞

井上 純子	(北海道)	館田 瑞枝	(青森県)
伊藤 敦子	(茨城県)	福島 友枝	(群馬県)
田中 紀代子	(埼玉県)	茂木 美保	(東京都)
中島 靖子	(長野県)	向野 正子	(富山県)
百々 浩美	(石川県)	岡田 弘子	(岐阜県)
佐塚 ひと美	(静岡県)	近田 紀子	(三重県)
三村 宏子	(滋賀県)	門利 まり	(広島県)
和田 百合	(広島県)	野村 加代	(高知県)
久保 万友美	(香川県)	土田 佳代	(香川県)
松本 りか	(熊本県)	原 陽子	(長崎県)
福重 雅美	(鹿児島県)		

(敬称略)

令和元年度 認定歯科衛生士セミナープログラム

生活習慣病予防 (特定保健指導-食生活改善指導担当者研修)コース

日 程 8月24日・25日、10月12日・13日・14日(5日間)

開催地 東京都 受講料 30,000円

医療保険者の特定健診・特定保健指導の実施に伴い、特定保健指導の実施者に必要とされる厚生労働大臣が定める「食生活改善指導担当者研修プログラム」に基づいて実施される。本コース修了者は、食生活の改善指導に関する専門知識および技術を有するものと認められ、医師・保健師・管理栄養士の統括管理者が作成した支援計画に基づく特定保健指導の実施者となることができる。

研修項目		研修内容
I	健康づくり施策概論	1 社会環境の変化と健康課題 2 健康づくり施策 3 生活習慣病とその予防
II	生活指導およびメンタルヘルスケア	1 生活指導と健康に影響する生活環境因子 2 個人の健康課題への対処行動(保健行動) 3 ストレスとその関連疾患およびストレスへの気づきへの援助 4 個別・集団の接近技法 5 ライフステージ・健康レベル別健康課題と生活指導
III	栄養指導	1 栄養・食生活の基礎知識および今日の課題と対策 2 食行動変容の栄養教育 3 ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育
IV	健康教育	1 健康教育の理念と方法 2 健康生活への指導プログラムの基礎知識と方法 3 メタボリックシンドロームに対する健康教育(禁煙支援プログラムの基礎と実践を含む) 4 口腔保健(メタボリックシンドロームとの関係)
V	運動の基礎科学	運動と健康のかかわり
VI	研究討議	意見交換
(特別講義) 特定健診・特定保健指導における食生活改善指導担当者の役割		

摂食嚥下リハビリテーションコース

日 程 8月24日・25日、10月12日・13日・14日(5日間)

開催地 東京都 受講料 35,000円

摂食嚥下の評価および障害等に関する知識や技術、年代別・病態別等の摂食嚥下障害への対応、栄養・構音機能・呼吸管理など、多職種連携による摂食嚥下リハビリテーションの実践に必要とされる知識・技術を習得する。日本摂食嚥下リハビリテーション学会の協力により実施される。

研修項目		研修内容
I	リハビリテーション総論	1 リハビリテーション医学とは 2 摂食嚥下の運動学
II	栄養管理	1 栄養アマネジメント 2 栄養サポートチーム(NST)の概念
III	病態別摂食嚥下障害(小児の摂食嚥下障害)	1 小児の口腔形態 2 正常発達と口腔機能の獲得 3 小児の摂食嚥下障害
IV	病態別摂食嚥下障害(中途障害の摂食嚥下障害)	1 脳血管障害、高次脳機能障害、神経筋疾患 2 頭頸部外科手術、歯科の対応 3 頭頸部がんの摂食嚥下障害の病態

V	咬合および咀嚼機能の評価と管理	1 咬合と咀嚼運動 2 咀嚼運動の解剖・生理 3 咀嚼機能の低下の要因
VI	摂食嚥下機能のメカニズム	1 摂食嚥下のメカニズム 2 嚥下中枢機構の構造と機能 3 脳と神経支配の構造と機能
VII	摂食嚥下の評価	1 フィジカルアセスメント 2 スクリーニング手法 3 頸部聴診法、嚥下造影・嚥下内視鏡検査
VIII	摂食嚥下訓練	1 訓練計画立案、食指導 2 各病態に対する訓練法とその選択
IX	食事外部観察評価	1 摂食嚥下機能低下の原因とリスクと対応 2 摂食時の外部観察評価 3 問題点の抽出、分析および対応法
X	リスクマネジメント	1 呼吸器の解剖と生理 2 呼吸法、呼吸筋ストレッチ 3 徒手の呼吸介助法、体位ドレナージ
XI	リスクマネジメント	1 全身管理 2 経鼻吸引
XII	摂食嚥下障害者への口腔管理の制度の理解	1 摂食機能障害者に関する制度の理解 2 医療保険、介護保険制度と口腔管理の実際
XIII	問題解決力の実践	1 グループディスカッション 2 フィードバックと模範解答

在宅療養指導・口腔機能管理コース

日 程 (5日間) 受講料 40,000円

神戸市	7月13日・14日・15日、8月3日・4日
東京都	8月24日・25日、10月12日・13日・14日

地域包括ケアシステムが推進される中、歯科医療の提供体制も従来の歯科診療所における外来患者中心の「歯科完結型」から、今後は「地域完結型」へと変化し、地域でのきめ細やかな歯科保健医療の提供が求められる。そこで多職種と連携し、「口腔機能管理」の専門家として知識と技術を習得し、セミナー受講後に所定の施設実習または勤務先での実務経験が加わる。日本老年歯科医学会との連携により実施される。

研修項目		研修内容
I	超高齢社会の現状	1 高齢者を取り巻く環境 2 身体と精神面の特徴 3 医療と介護 4 認知症症状と分類 5 口腔機能管理が求められる理由
II	咬合と咀嚼	1 咬合に起因する病態 2 咀嚼の解剖学的・生理学的基礎 3 食塊形成への理解
III	咬合と咀嚼の評価	1 咬合の観察と分類(アイヒナー分類) 2 咀嚼の客観的評価法
IV	口腔機能低下症	1 オーラルフレイルと口腔機能低下症 2 口腔内微生物叢 3 高齢者の口臭
V	計測器を使った評価法	1 細菌カウンタ 2 舌圧計 3 口腔水分計

研修項目	研修内容
VI 唾液	1 サクソソング(便法)による計測 2 唾液の成分 3 成分ごとの働き 4 唾液不足から表れる事 5 歯科衛生士の役割
VII 発音(構音)と諸器官・組織	1 発音(構音)時の各組織と器官の関わり 2 発音による評価(オーラルディアコキネシス)
VIII 栄養サポート	1 栄養サポートのシミュレーション実習 ① 口腔機能を評価する ② 食支援の具体策を作る ③ 発表(プレゼンテーション) 2 栄養サポートのまとめ (地域包括ケアシステムのなかでの歯科)
IX 医療と介護の連携	1 地域包括ケアシステムについて 2 多職種連携の実際 3 在宅療養者の環境把握
X 終末期の対応	1 看取りの考え方 2 歯科衛生士の役割
XI 高齢者の全身疾患(評価と対応)	1 リスク評価の重要性 2 全身状態の把握と対応 3 精神疾患(認知症)への対応 4 照会状の書き方 5 診療情報提供書の読み方 6 全身疾患と検査値との関連
XII 実践例の紹介	実践例紹介 ミールラウンド、介護予防等、ディスカッション
XIII 在宅療養者への歯科衛生士としての介入	グループワーク 1 状況設定(症例検討題材:脳梗塞後、認知症、がん末期、神経性難病、糖尿病、心臓病、呼吸器疾患等)症例検討題材からの問題点の抽出 2 問題点の抽出(KJ法) 3 介入法の検討

歯科医院・施設等での実務研修
(詳細はホームページにてご確認ください)

糖尿病予防指導コース

日程 8月31日・9月1日、9月28日・29日(4日間)

開催地 徳島市 受講料 35,000円

糖尿病予防の口腔保健指導および管理にかかる専門的な知識・技能の習得に資する研修を実施し、地域社会に貢献できる医学的・歯学的知識と口腔保健学的技能を有する歯科衛生士を養成する。徳島大学歯学部の協力により実施。

研修項目	研修内容
I オリエンテーション	1 研修の概要説明と時間割の確認 2 ペアによる他人紹介 3 糖尿病予防の重要性 4 「糖尿病とその予防で学習したいこと」KJ法
II 講義ワークショップ	1 糖尿病の基礎知識と臨床の実際 2 糖尿病と歯周病の関連性 3 「糖尿病予防の目的と必要性①」KJ法
III 講義ワークショップ	1 地域歯科医療における糖尿病予防 2 多職種連携における糖尿病予防 3 糖尿病予防の口腔保健指導と管理 4 糖尿病と歯周病の最新情報 5 「糖尿病予防の目的と必要性②」KJ法、二次元展開図

IV 講義ワークショップ	1 糖尿病予防の保健指導と管理 2 糖尿病予防の栄養指導と管理 3 糖尿病予防の口腔保健指導と管理のポイント 4 シナリオに対する口腔保健指導のプラン作成	
V 演習	カンバセーションマップ	
VI 實習 総合討論	1 口腔保健指導プランをもとに相互実習 2 全体発表、総合討論	
VII 口腔保健指導の体験	1 健口フェア参加者への口腔保健指導の体験 2 口腔保健指導を行った症例について、後日報告書を提出、評価	

医科歯科連携・口腔機能管理コース

急性期・回復期等の口腔機能管理にかかる専門的な知識・技能の習得に資する研修を実施し、総合病院における多職種連携に必要な医学的知識を有する歯科衛生士を養成する。九州歯科大学と東京歯科大学に委託実施。

【九州歯科大学】

日程 9月9日~13日(5日間)

開催地 北九州市 受講料 55,000円

研修内容
I ガイダンス
II 周術期に関する講義 ① 外科医によるがん手術の術式と術後管理 ② 内科医による周術期管理に関する内科的課題 ③ 口腔外科医による顎顔面領域の外科手術の周術期管理 ④ 口腔保健・長寿推進センターにおける歯科医療と全身管理
III 周術期口腔機能管理における多職種連携に必要な技術 ① 情報共有に必要な歯科衛生過程の講義 ② がん患者の口腔機能管理症例演習 ③ 周術期における摂食嚥下機能評価実習 (内視鏡下嚥下機能検査(VE)含む)
IV 九州歯科大学附属病院での周術期口腔機能管理の見学実習
V 製鐵記念八幡病院での入院支援センターの見学実習
VI 臨床研究のための文献検索、文献の読み方、研究方法に関する講義 統計解析実習

【東京歯科大学】

日程 前期7月4日・5日・6日

後期7月22日~8月27日のいずれかの月火2日間

開催地 東京都 受講料 55,000円

研修項目	研修内容
I ガイダンス	認定研修の概要
II 周術期に関する講義	1 総論 -病院歯科の役割- 2 病院における口腔機能管理に必要な基本的知識 3 がん患者の周術期管理(外科の立場から) 4 脳卒中患者の口腔機能管理 5 周術期口腔機能管理の制度と医科歯科連携 6 周術期口腔機能管理の実際 ~歯科衛生士の立場から 7 緩和ケア ~看護師の立場から 8 化学療法と有害事象 ~薬剤師の立場から 9 放射線療法と有害事象 ~医学物理士の立場から
III 周術期口腔機能管理の演習	1 症例検討(グループワーク) 2 吸引・呼吸音聴診実習

IV	臨床研究	1 臨床研究の進め方 2 研究方法		VII	医科歯科連携 見学実習	1 NST(栄養サポートチーム)回診見学実習 2 RST(呼吸サポートチーム)回診見学実習
V	周術期口腔機能管理の見学実習 (東京歯科大学市川総合病院)	1 歯科・口腔外科での周術期口腔機能管理見学実習 2 東京歯科大学口腔がんセンターの見学実習 3 病棟での口腔管理見学実習				

認定歯科衛生士の紹介

日本歯科衛生士会認定歯科衛生士制度規則に基づき、認定分野別に生活習慣病予防(特定保健指導-食生活改善指導担当者研修)34名、摂食嚥下リハビリテーション46名、在宅療養指導・口腔機能管理192名、糖尿病予防指導53名、医科歯科連携・口腔機能管理31名、障害者歯科26名、老年歯科10名、地域歯科保健1名、口腔保健管理2名、研修指導者・臨床実地指導者77名合わせて472名の方々を認定歯科衛生士名簿に登録し、認定証を交付いたしました。各分野において認定歯科衛生士として活躍されることを期待します。

【認定分野A】生活習慣病予防(特定保健指導-食生活改善指導担当者研修)								平成31年4月1日登録
〈北海道〉	〈福島県〉	〈千葉県〉	酒井 聰美	〈長野県〉	〈大阪府〉	小林 詩織	〈福岡県〉	
永山 順子	村澤 真澄	田中 綾子	渡辺 裕美	麻田 加代子	武石 みゆき	瓦田 彩加	荒巻 八重子	
木村 ななみ	〈茨城県〉	大堀 ゆかり	小林 美生	高野 富美子	勝山 尚子	〈奈良県〉		
〈秋田県〉	水野 孝子	〈東京都〉	駒崎 啓美	築田 美由紀	〈兵庫県〉	松尾 由佳		
松橋 瞳子	〈埼玉県〉	根本 園恵	〈神奈川県〉	〈静岡県〉	谷 美紀	吉福 美香	〈島根県〉	
〈山形県〉	内川 美子	野浦 康江	川瀬 優子	小宮山 ひろみ	岡本 菜甫	〈島根県〉		
小野 淑子	清水 克子	岡本 和佳子	渡井 京子	佐野 春菜	安部 美智野			

【認定分野A】摂食嚥下リハビリテーション								平成31年4月1日登録
〈北海道〉	〈埼玉県〉	中山 薫	柳下 たみ子	松永 奈津希	植田 智子	〈福岡県〉	〈沖縄県〉	
大津 久子	肥沼 順子	〈神奈川県〉	堀 佐和子	〈三重県〉	〈兵庫県〉	小賦 靖子	幸喜 奈緒子	
久保 直美	八木 松代	橘 小由里	〈愛知県〉	宮城 千鶴	岩崎 小百合	荻田 久美子		
〈福島県〉	〈東京都〉	鈴木 恵	大河内 ひろみ	森下 さおり	登利 早苗	中村 洋子		
古川 千絵	佐々木 真佐子	〈富山県〉	宇野 文子	〈大阪府〉	〈広島県〉	中村 直美		
〈茨城県〉	餌取 恵美	久保 摩耶	近藤 まゆみ	梶 貢三子	松若 聖弥	下玉利 瑛里子	〈長崎県〉	
持田 雄子	竹原 由貴	〈岐阜県〉	飯嶋 香	小森 弥生	〈香川県〉	井手 早苗		
〈栃木県〉	斎藤 菊江	繩田 理佳	松木 里沙	赤松 明日香	福田 泉			
石渡 しのぶ	丸山 千春	井野根 繁子	安面 紀代子	田中 圭子	中村 千佐			

【認定分野A】在宅療養指導・口腔機能管理								令和元年6月1日登録
〈北海道〉	天井 利香	〈静岡県〉	中西 美幸	浅井 真栄	〈鳥取県〉	山根 次美	高田 ゆりえ	
野呂 紀子	長井 昌子	加藤 晴美	〈京都府〉	北川 まさ美	加納 有子	板木 咲子	〈愛媛県〉	
日比 友乃	〈神奈川県〉	鈴木 明子	家高 明美	白子 美和	渡辺 靖子	坂本 奈津子	小西 いずみ	
〈青森県〉	高橋 邦子	樋口 有佳里	上田 登美子	〈兵庫県〉	〈島根県〉	深本 幸恵	村中 志穂	
杉山 祐美子	三浦 千賀子	海野 敦子	志賀 由美	恵比須 美知代	石田 陽子	山口 美智子	〈高知県〉	
〈福島県〉	秋田 礼子	齋藤 美和	瀬戸口 晴子	濱田 雅子	〈岡山県〉	石川 一美	植田 彩子	
菅家 美和子	法木 忍	桑原 智美	木村 千鶴	森 史子	飯田 美知代	藤井 好美	渡辺 朋世	
新妻 香	高橋 小枝	柴山 奈都子	村上 正恵	澤田 美佐緒	大河原 鈴加	住本 朋子	〈福岡県〉	
〈茨城県〉	川田 みゆき	〈愛知県〉	〈大阪府〉	市田 久美子	〈広島県〉	藤原 千尋	坂梨 裕子	
小塚 恭子	田村 律子	小澤 浩美	瀧 佳子	岡田 浩美	中河原 みどり	広瀬 香代子	荒木 貴子	
〈栃木県〉	若尾 美知代	中邨 愛	松本 律子	小西 和子	鈴谷 美和	新田 智恵	原口 公子	
川上 美佐子	井塚 晶代	森島 暢子	木田 由美子	奥野 里砂	岡本 啓子	河村 あゆみ	〈佐賀県〉	
椎橋 桂子	齊藤 理子	吉川 そのみ	白居 綾子	林 澄子	荒木 知苗	尾上 千里	江口 むつ子	
〈群馬県〉	平田 千賀	〈三重県〉	田村 照美	河野 陽子	谷口 つや子	岡 朋子	山口 いづみ	
筑比地 真弓	高橋 恵子	中西 香織	松原 真弓	松木 佐代子	村田 朋子	鹿林 七瀬	藤川 理香	
瀬下 愛子	〈長野県〉	南川 亜紀	西部 隆子	山本 三幸	和田 恵美	坂本 和子	〈長崎県〉	
〈千葉県〉	武井 佳子	田中 玲子	松田 久美	田中 恵美子	山部 さとみ	土居 歩美	岩本 和美	
山口 智恵	篠原 昭子	若宮 由紀恵	桜井 由佳	〈奈良県〉	服部 真弓	福松 和恵	山口 方子	
〈東京都〉	〈富山県〉	〈滋賀県〉	大演 雅子	下岡 真由美	藤川 直子	川原 凉子	〈熊本県〉	
平井 みつよ	長久 聖子	奥村 慶子	岡川 安子	平林 佳奈	石井 ひとみ	竹田 幸恵	佐藤 成美	
貨泉 朋香	〈岐阜県〉	林 泰代	吉村 明子	小牧 圭美	岡田 賀津枝	〈山口県〉	松崎 貴久子	
滝沢 真理子	井野根 繁子	和田 絵里子	打田 淳子	〈和歌山県〉	吉岡 真里	早野 泰枝	清水 千代美	
大越 理恵	日野 隆子	日野 裕香	山東 理沙	山東 理沙	原田 文江	柴田 久美	坂本 美幸	

大村 加与子	今泉 克美	荒木 智子	朝廣 智美	瀬音 美幸	〈大分県〉	古田 奈美江	〈沖縄県〉
渡邊 由紀	磯田 京子	金子 優子	中村 彩乃	原田 真知子	〈宮崎県〉	小山 みどり	
古嶋 晓子	宮川 恵子	歌津 香美	内古閑 美友紀	前村 佳子	青木 利美	下池 光	平尾 和美
清本 恭代	山田 郁子	福田 梓	元田 尚美	反頭 由紀子	金子 良美	〈鹿児島県〉	
松本 三貴	佐藤 はるみ	松下 利恵	河本 のぞみ	吉田 久美子	立山 博子	福元 知美	
富永 万里子	矢野 道子	濱 梢	加藤 真奈美	小崎 智加子	北方 綾乃	津町 千代子	

【認定分野A】糖尿病予防指導

平成31年4月1日登録

〈岩手県〉	〈東京都〉	宮本 りさ	〈京都府〉	〈兵庫県〉	田井 恵子	〈愛媛県〉	〈大分県〉
吉田 和子	水口 洋子	久保田 加寿美	門野 節子	橋本 香	〈広島県〉	西村 真由美	麻生 清子
〈秋田県〉	岩崎 妙子	〈愛知県〉	宇野 文	門脇 洋子	須賀 祥子	土岐川 満代	友枝 康代
長岐 祐子	雨宮 美貴	八木 えり子	〈大阪府〉	葛岡 正姫	山口 美智子	〈福岡県〉	藤田 峰子
〈埼玉県〉	〈神奈川県〉	吉田 明美	石飛 国子	谷川 あかね	増見 香里	橋本 稔恵	富田 明子
十川 裕子	古尾谷 幸子	向坂 直巳	濱元 一美	田中 佳子	〈山口県〉	力久 生子	
〈千葉県〉	渡邊 美奈子	〈滋賀県〉	福田 夏子	〈岡山県〉	国本 菊枝	増田 佳英	
小川 磨美	〈三重県〉	落合 文代	橋場 佳子	原見 利枝子	奥野 奈々	〈熊本県〉	
鈴木 美穂	近田 紀子	土屋 奈美	中尾山 美賀	木村 優子	〈香川県〉	柴原 聖子	
那須野 有沙	森下 るみ		福岡 智子	内倉 恒子	参川 恒子		

【認定分野A】医科歯科連携・口腔機能管理

平成31年4月1日登録

〈北海道〉	〈東京都〉	山本 綾	〈兵庫県〉	〈奈良県〉	成行 稔子	泉 蘭依	〈沖縄県〉
瀧井 百合子	江藤 倫子	〈岐阜県〉	赤崎 直美	吉田 美和	西谷 愛莉	〈熊本県〉	波照間 克子
〈千葉県〉	加藤 純子	松原 恵子	黒宮 久美子	〈広島県〉	〈福岡県〉	内場 絹代	
永井 由美子	田上 美鈴	〈京都府〉	平瀬 彩	甲斐切 有紀子	中道 敦子	松崎 ひとみ	
江口 貴子	植木 美江	田村 享子	池田 恵理	〈香川県〉	高橋 由希子	〈長崎県〉	
綿引 美香	有賀 香	湯澤 理加	船原 まどか	高橋 弥生	小川 順子	大石 佳奈	

【認定分野B】障害者歯科

平成30年12月15日登録

〈宮城県〉	〈埼玉県〉	宇野 恵理	〈山梨県〉	〈愛知県〉	毛利 志乃	〈徳島県〉	〈沖縄県〉
菅野 真生	飯田 恵理	島根 恭代	伊藤 美香	飛嶋 かおり	〈大阪府〉	前野 彩花	上原 由和
高橋 るい	〈千葉県〉	加藤 真莉	〈長野県〉	鈴木 千里	和氣坂 香織	〈香川県〉	松本 早世
〈群馬県〉	平山 幸子	河村 木里子	三澤 美幸	〈三重県〉	〈兵庫県〉	佐山 真由美	
谷津 美恵	〈京都府〉	〈神奈川県〉	〈静岡県〉	太田 康子	竹野々 晓子	〈佐賀県〉	
	井原 和恵	根本 ちさと	村松 保子	近藤 聰美		上原 みゆき	

【認定分野B】老年歯科

平成31年4月1日登録

〈北海道〉	〈東京都〉	〈兵庫県〉
橋本 みゆき	宮本 敦子	泉本 美穂
長尾 由美子	〈神奈川県〉	〈福岡県〉
馬場 めぐみ	佐藤 由紀子	繩田 和歌子
〈宮城県〉	日吉 美保	
岸 さやか	若尾 美知代	

【認定分野B】地域歯科保健

平成31年4月1日登録

〈東京都〉
多良 千里里

【認定分野B】口腔保健管理

平成31年4月1日登録

〈大阪府〉	〈福岡県〉
岡澤 悠衣	泉 蘭依

【認定分野C】研修指導者・臨床実地指導者

平成31年4月1日登録

〈青森県〉	〈埼玉県〉	〈山梨県〉	伊藤 ひとみ	〈京都府〉	船原 まどか	和木田 敦子	松尾 明美
石田 菜穂子	大久保 喜恵子	永井 鈴美	〈静岡県〉	真田 依功子	〈奈良県〉	中岡 美由紀	〈福岡県〉
〈岩手県〉	〈千葉県〉	〈新潟県〉	齋藤 美和	〈大阪府〉	瓶原 明身	西村 瑞美	中道 敦子
浪岡 多津子	岡部 明子	関口 恵理子	〈愛知県〉	上野 美奈	吉田 美和	前原 朝子	久保山 裕子
〈宮城県〉	〈東京都〉	船岡 陽子	水草 あゆみ	藤林 由利安	〈和歌山県〉	〈徳島県〉	杉浦 裕子
人見 早苗	島谷 和恵	塚田 しげみ	伊藤 裕美子	河野 洋子	林 糸津香	小林 美保子	高橋 由希子
堀込 ゆかり	吉田 直美	〈富山県〉	〈三重県〉	高田橋 美幸	山下 千穂	森本 みどり	泉 蘭依
〈山形県〉	渡邊 洋子	荒木 千加子	笛間 滋代	山口 千里	麻生 万裕美	河野 美枝子	〈熊本県〉
小野 淑子	小森 朋栄	〈石川県〉	荒木 弘子	米田 裕香	〈岡山県〉	橋本 千奈美	志垣 留美
〈福島県〉	小原 由紀	石垣 敦子	丹羽 友美	〈兵庫県〉	三浦 留美	十川 悠香	中村 加代子
菅野 洋子	〈神奈川県〉	〈岐阜県〉	水谷 雅子	小松 陽子	戸川 靖代	中江 弘美	〈大分県〉
〈群馬県〉	廣川 香	奥村 美雪	〈滋賀県〉	笠井 昌樹子	木村 優子	北條 康子	麻生 清子
藤村 季子	渡邊 月子	藤井 重子	宇治田 ゆみ	藤田 琴美	〈広島県〉	松本 厚枝	〈沖縄県〉
		西田 里美		久保 祐美子	松本 厚枝	久保 万友美	野田 直美

本会では、2017年より歯科衛生士の人材確保・復職支援事業を推進しています。今回より、全国各地で行っている人材確保復職支援事業の取り組みをご紹介します。地域活動のご参考にしてください。

復職を
応援しよう

「川口歯科医師会パートナー歯科衛生士」事業の紹介

一般社団法人日本歯科医療管理学会理事／一般社団法人川口歯科医師会前会長
中村 勝文

一般社団法人川口歯科医師会は現在会員数228名で、埼玉県内ほぼ最大規模の歯科医師会です。平成19年度に組織したパートナー歯科衛生士制度について、地域における歯科衛生士の復職支援の立場から紹介したいと思います。

1 パートナー歯科衛生士制度概要

川口歯科医師会では、母子歯科保健から高齢者歯科保健まですべてのライフステージに関わるさまざまな地域歯科保健事業を行っています。また介護予防における口腔機能向上プログラムにも参画しています。これらの事業の担い手は歯科医師と歯科衛生士であり、当会で行う各種事業に高い専門性を発揮できる歯科医師および歯科衛生士の確保が課題となり、特に歯科衛生士の確保については非常に不安定な状況でした。そのため、事業に協力できる歯科衛生士の登録、組織化を図り、「パートナー歯科衛生士」事業を始めることになりました。現在歯科衛生士の復職支援が大きな課題となっていますが、本事業はフルタイムでは働けない未就業歯科衛生士の掘り起こしを行い、歯科衛生士一人ひとりのライフスタイルに合わせた復職支援事業の一つとなっています。

募集は求人誌ならびに川口歯科医師会ホームページ上で随時行っており、出勤時の報酬は各事業の規定によります。

平成30年度において、パートナー歯科衛生士の登録人数は45名で、以下の各種歯科保健事業に協力していただいている。出勤回数は最大で年間15回ほどで、全員で延べ400回程度の出勤回数となっています。



介護予防事業

2 パートナー歯科衛生士による事業

活躍していただいている事業は下記のとおりとなっています。

A. イベント関係

- ① 川口市歯の健康フェスティバル
- ② 川口健康フェスティバル
- ③ 川口市市産品フェア

B. 地域保健事業関係

- ① 各種高齢者施設、養護学校、障害者施設等歯科保健事業
- ② 通所型介護予防事業
- ③ 川口市訪問歯科健康診査事業
- ④ 妊婦歯科事業
- ⑤ その他



ブラッシング指導

C. 医療介護総合確保基金関係

- ① 川口訪問歯科センター
(川口地区在宅歯科医療推進拠点)



歯の健康フェスティバルにて

3 医療介護総合確保基金を使用しての事業

要介護者等に対し、在宅歯科医療を提供しQOLの向上を図るとともに、地域包括ケアシステムの中の歯科部門の基盤整備を進めることを目的に、埼玉県ならびに埼玉県歯科医師会では医療介護総合確保基金を活用し、地域在宅歯科医療推進拠点の設置、入院患者の歯科保健状況の把握および歯科衛生士の確保対策の推進等の事業を行っており、その一環として川口歯科医師会は、川口訪問歯科センターを設置し、他職種とも連携し在宅医療、介護連携事業を推進しています。

川口訪問歯科センターにおいては、3名の常勤歯科衛生士をパートナー歯科衛生士の中から募集して雇用契約を結び活動していただいている。主な業務は訪問歯科診療の申込みへの対応と、病院におけるアセスメントとなっていて、歯科衛生士としての役割を果たしていただいている。

川口歯科医師会のパートナー歯科衛生士は、僅かの時間でも歯科保健医療に関わることで、歯科衛生士マインドを保ち、生活環境やライフスタイルに合わせて社会に貢献することができます。

平成30年度 都道府県歯科衛生士会会长会開催

平成31年2月16日(土)ステーションコンファレンス東京において平成30年度都道府県歯科衛生士会会长会が開催された。

初めに、武井会長より、この一年間日本歯科衛生士会が注力してきたこととして、①人材育成の取り組み②人材確保、復職支援③地域歯科保健活動④災害支援⑤倫理綱領策定についての5項目にわたり具体的な報告があった。「これらの活動は、都道府県歯科衛生士会とともに事業を行うことが大切と考えています。今後も国民のために歯科衛生士力を高めるよう、すべての歯科衛生士が充実した研修が受けられるように皆様と一緒に頑張っていきたいと思います」と挨拶があった。

引き続き議題に入った。内容としては、(1)平成31年度事業計画の概要について(2)「第5次生涯研修制度(案)」(eラーニングを含む)の概要について(3)「歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会」のアンケート調査結果(4)平成31年度「ブロック連絡協議会」および「ブロック別・災害支援歯科衛生士フォーラム」の実施要領について(5)「歯科衛生士の倫理綱領(案)」について(6)その他「平成29年度地域歯科保健活動実施状況調査報告」の説明があった。



特に「歯科衛生士の倫理綱領(案)」については、金澤紀子顧問より「近年、歯科衛生士は口腔健康管理を担う専門職として、より質の高い業務を実現するために、知識・技術の向上だけでなく、その基礎となる高い倫理性を備える必要がある。歯科専門職として多職種と連携して適切な口腔健康管理を提供するためには倫理的課題に対する基本姿勢を明確にし、自己の実践を振り返る基準を提示することが不可欠である。新たな時代に向け『歯科衛生士の倫理綱領』を策定しなければという熱い思いで準備を進めてきた」と説明があった。

後半は、「歯科衛生士の人材確保・復職支援等に関する取り組み」として、和歌山県・長崎県・山梨県の各会長より情報提供がされた。その後、全国6ブロックに分かれての分科会では、提案課題である①平成31年度のブロック連絡協議会について②会員拡大について③その他、活発な意見交換が行われ閉会となった。

(理事 伊藤 真知子)



日本歯科衛生学会 第14回学術大会 事前参加登録のご案内

第14回学術大会を、令和元(2019)年9月14日(土)～16日(月・祝)に、ウインクあいち(愛知県産業労働センター)において開催いたします。学術大会の詳細は日本歯科衛生学会雑誌Vol.14 No.1(8月発行)をご参照ください。オンラインまたは郵便振替でご登録ください。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

事前登録期間：令和元(2019)年6月3日(月)～8月15日(木)

参 加 費 用：会 員 7,000円 (当日 10,000円)

会員外 12,000円 (当日 15,000円)

【インターネットによるオンライン登録】

日本歯科衛生学会第14回学術大会ホームページ内の事前登録ページからお手続きください。クレジットカード払いまたはコンビニ払いがご利用いただけます。

<https://jsdhm.jdha.or.jp/14th/>

※パソコン、スマートフォンから24時間登録可能です。



【郵便振替による登録】

郵便局で青色の「払込取扱票」を使用し、通常払込みで送金してください。

口座番号：00160-7-299610

加入者名：日本歯科衛生学会

金 额：会員 7,000円 会員外 12,000円

通 信 欄：①「第14回学術大会事前登録」

②会員の方は「会員番号(10桁の番号)」をご記入ください。

- 注意事項
- 学術大会当日、事前登録受付にて参加証をお渡します。大会前に事前登録証の郵送はありませんのでご注意ください。
大会当日は、会員証およびオンライン登録の場合は、登録確認メールの控え、郵便振替の場合は、払込取扱票の受領証を必ずお持ちください。
 - 令和元(2019)年度会費が未納の方は、会員としての取り扱いはできませんのでご注意ください。
 - 申込み後の変更、キャンセルは一切お受けできません。納入された参加費は理由を問わず返金いたしません。

問い合わせ先

日本歯科衛生学会事務局
電話：03-3209-8020

第22回感染症予防歯科衛生士講習会開催のお知らせ

1 目的

歯科衛生士を対象に、HIV等の感染症予防講習を行い、感染を防ぐとともに、院内感染の予防管理対策や歯科診療所における医療安全対策に関する講習を行うことにより、患者が安心して受けられる歯科保健医療の提供を図ることを目的とする。

2 実施の主体(共催)

公益社団法人 日本歯科医師会
公益社団法人 日本歯科衛生士会

3 協力

公益社団法人 熊本県歯科衛生士会
一般社団法人 山梨県歯科衛生士会

4 対象

業務に従事している歯科衛生士

5 開催日時

① 熊本会場：2019年7月21日(日) 10時～16時
② 山梨会場：2019年8月25日(日) 10時～16時

6 会場

熊本会場

熊本県歯科医師会館
熊本県熊本市中央区坪井二丁目4番15号
<http://www.kuma8020.com/outline/access.html>

アクセス▼



山梨会場

韮崎市民交流センター NICORI—ニコリー
山梨県韮崎市若宮一丁目2番50号
<http://www.nirasaki-nicori.jp/access.html>

アクセス▼



7 定員

① 熊本会場：130名
② 山梨会場：80名

8 受講料

無料

9 研修単位

- 日本歯科衛生士会 第5次生涯研修制度 専門研修 4単位
(基本研修 特定コース「歯科診療所における医療安全対策」)
- 日本歯科衛生士会 第5次生涯研修制度 認定更新生涯研修 3単位

10 修了証書の交付

講習を修了した者に対し、修了証書を交付します。

研修内容

時間	熊本会場	山梨会場
10:00～10:10	開会	開会
10:10～11:40	「最新の感染症事情～HIV感染症と歯科～」 国立病院機構九州医療センター歯科口腔外科 部長・科長 吉川 博政先生	「最新の感染症事情～HIV感染者等の歯科診療について～」 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院 副病院長 歯科・口腔外科診療科長 丸岡 豊先生
11:40～12:30	(昼食・休憩)	(昼食・休憩)
12:30～14:00	「院内の感染予防管理」 大阪労災病院歯科口腔外科 部長 吉岡 秀郎先生	「院内の感染予防管理」 社会医療法人社団森山医会 森山記念病院 歯科口腔外科 宮本 智行先生
14:15～15:45	「歯科診療所における医療安全管理」 九州歯科大学 口腔保健・健康長寿推進センター 教授 大渡 凡人先生	「歯科診療所における医療安全管理体制」 一院内感染予防をさらに高めるために 医療安全とチームの視点からー 赤坂見附磯谷歯科室 院長 磯谷 一宏先生
15:45～16:00	閉会	閉会

【申込方法】

申込先：日本歯科衛生士会

申込みはこちら▶



メールまたはQRコードからお申し込みください

E-mail:kensyu@jdha.or.jp

(1)件名 感染症予防歯科衛生士講習会 ○○会場

(○○会場には「熊本会場」または「山梨会場」をご記入ください)

(2)必要記載事項

①会場名

②氏名

③会員番号(会員のみ)

④住所

⑤勤務先

⑥講習会当日連絡がとれる電話番号

* メール受信後は日本歯科衛生士会よりメールを返信いたしますので、ドメイン「jdha.or.jp」からのメールを受信できるようあらかじめ設定をお願いいたします。

* メールでの申し込みができない場合は、FAXにてお申し込みください。

必要記載事項①～⑥のほか、⑦FAX番号をご記入ください。

受付締切 ① 熊本会場：7月1日(月)

② 山梨会場：8月5日(月)

申し込みにあたっての留意点

● 申し込み後1週間を経過してもメールの返信がない場合は、再度ご連絡ください。

● 日本歯科衛生士会からの返信メールの内容を印刷し、講習会当日受付でご提示ください。

● 印刷できない方は、①受講番号 ②氏名 ③会員番号(会員のみ)をA4サイズの用紙に書いて当日受付でご提示ください。

* 会員の方は会員証をご持参ください。

【注意事項】

● 受講申し込み後、何らかの事情で欠席する場合は、順次他の者に受講の機会を与えますので、その旨を必ず日本歯科衛生士会に、メールまたはFAXでご連絡ください。

● 台風接近等により開催の可否判断が難しい場合には、開催当日の午前6時に「日本歯科衛生士会ホームページ」のトピックスでお知らせします。

【問い合わせ先】

日本歯科衛生士会(担当 増田)

E-mail:kensyu@jdha.or.jp FAX:03-3209-8023

令和元年度 定時代議員会の開催について

代議員各位

公益社団法人日本歯科衛生士会
会長 武井典子

令和元年度定時代議員会を下記のとおり開催いたします。

記

1.日 時 令和元年6月16日(日)13時30分~16時00分

2.場 所 ステーションコンファレンス東京501
東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー5階

3.議題

- 第1号議案 理事及び監事の選任に関する件
- 第2号議案 平成30年度事業報告(案)に関する件
- 第3号議案 平成30年度決算報告(案)に関する件
監査報告
- 第4号議案 歯科衛生士の倫理綱領(案)に関する件
- 第5号議案 会長候補者の選定に関する件

4.報告事項

- ①令和元年度事業計画について
- ②令和元年度収支予算について

※定時代議員会開催の前に、13時から同会場にて“会長表彰”を行います。

理事及び監事候補者

1.理事候補者

定数15名以上20名以内(候補者20名)

(五十音順)

候補者	所属会	ブロック	推薦代表者
伊藤 真知子	東京都		儀我 有子
上田 和美	兵庫県		上原 弘美
小原 由紀	東京都		関口 晴子
久保山 裕子	福岡県		天本 和子
河野 章江	東京都		伊藤 奏
小前 みどり	兵庫県		高橋 千鶴
関口 洋子	東京都		合場 千佳子
武井 典子	東京都		大久保 喜恵子
浪岡 多津子	岩手県		山本 智美
根岸 麻理	東京都		小山 圭子
武藤 智美	北海道		市川 智恵
茂木 美保	東京都		吉田 和恵
山口 朱見	千葉県		小野 淑子
吉本 美枝	京都府		白波瀬 由香里
千葉 茂美	岩手県	北海道・東北	晴山 婦美子
中村 郁子	茨城県	関東信越	芹澤 鏡子
吉澤 茂美	福井県	東海北陸	坂本 陽子
高田橋 美幸	大阪府	近畿	橋場 佳子
成行 稔子	香川県	中国四国	木戸 みどり
宮脇 恵美子	鹿児島県	九州	下川 真弓

2.監事候補者

定数2名 候補者2名

候補者	所属会	備考	推薦代表者
渡邊 洋子	東京都		松田 智子
今村 敬	会員外	公認会計士	理事會推薦

理事会報告

平成30年度第6回理事会が平成31年3月17日に開催された。審議事項および報告事項は次のとおりである。

審議事項

- (1) 平成31年度歯科衛生推進委員会及び組織委員会の重点課題(案)について
- (2) 委員会規程の一部改正について
- (3) 平成31年度事業計画(案)について
- (4) 平成31年度収支予算(案)について
- (5) 平成31年度資金調達及び設備投資の見込みについて
- (6) 平成31年度定時代議員会開催(案)について
- (7) 監事候補者(公認会計士)の推薦について
- (8) 歯科衛生士の倫理綱領(案)について
- (9) 第5次生涯研修制度について
 - ①第5次生涯研修制度実施要綱及び第5次生涯研修制度実施要綱細則の一部改正について
 - 関連事項：別紙「eラーニング研修の実施要領(案)」
 - ②認定歯科衛生士制度規則及び認定歯科衛生士制度施行細則の一部改正について
- (10) 平成31年度職員給与について
- (11) 新入会員の承認について
- (12) その他

報告事項

- (1) 会務報告について
- (2) 監査実施報告について
- (3) 歯科衛生士法制定70周年・日本歯科衛生士会創立65周年記念の会報告について
- (4) 第22回感染症予防歯科衛生士講習会実施要領【確定版】について
- (5) 第14回学術大会のプログラムについて
- (6) 事務局職員業務分担(平成31年度)について
- (7) 介護保険施設における口腔健康管理マニュアルについて
- (8) 臨地実習指導事例集(平成30年度改訂版)について
- (9) 第3回歯科口腔保健の推進に係るう蝕対策ワーキンググループ報告について
- (10) 医療現場における暴言・暴力等のハラスマント対策について
- (11) 第8回災害歯科保健医療連絡協議会報告について
- (12) (公財)8020推進財団第7回理事会報告について
- (13) 第3回医科歯科連携推進専門家委員会報告について
- (14) 日本歯周病学会「地域活動賞」受賞候補団体の推薦について
- (15) 後援名義使用及び生涯研修制度の研修単位認定について

「第21回歯科衛生国際シンポジウム(ISDH)」のご案内

2019年、オーストラリア ブリスベンにて開催される標記シンポジウムの概要をお知らせします。なお、当初予定されていました韓国ソウルでの開催は2024年に変更になりました。

開催時期	2019年8月15日~17日
会場	Brisbane Convention and Exhibition Centre Brisbane, Australia
メインテーマ	Leadership Empowerment Advances Diversity



※詳細は
<https://www.isdh2019.com/> をご参照ください

